

知床五湖の利用のあり方協議会（第9回）議事録

1. 場所：知床世界遺産センター レクチャールーム
2. 日時：平成22年4月26日（月） 15：00～17：30
3. 出席者：別紙の通り
4. 配布資料
 - 資料1－1 知床五湖利用調整地区の立入認定（案）について
 - 資料1－2 植生保護期の立入認定手続きの流れ（案）
 - 資料2 知床五湖フィールドハウス・施設平面図（案）
 - 資料3 車両渋滞対策における検討の枠組み等について（素案）
 - 資料4 知床五湖キャッチフレーズへの対応について
 - 資料5－1 パブリックコメントのお知らせ（案）
 - 資料5－2 利用適正化計画のパブリックコメント開始について
 - 資料5－3 利用適正化計画（案）について
 - 参考資料1 知床五湖高架木道（仮称）開通記念式典結果報告

5. 議事概要：

(1) 開会挨拶：環境省釧路自然環境事務所 則久次長

(2) 議題 1. 知床五湖利用調整地区の立入認定（案）について

植生保護期の立入認定手続きの流れ（案）について

環境省：資料 1-1、1-2 の説明

知床ガイド協議会：入ってすぐに引き返す場合は、手数料の返金を行うか。

環境省：手数料は、手続きにかかる費用となっているため、返金を行わない。認定を受けたが、立ち入れなかった場合は、別の日に振り替える事が出来るようにする。

知床ガイド協議会：その認定書は本人しか使えないのか。

環境省：個人認定の場合には、個人のみ使用可。代表者認定の場合には工夫の余地がある。この部分については、今後詰めていく。

しれとこ・ウトロフォーラム 21：団体での利用だと金額が大きくなる。このような場合、利用者は納得しない可能性がある。このようなクレームの対応についてどのようにするのか。

環境省：申し込みの段階で、詳しく説明を行う。法令上、納付した手数料の返金は出来ないが、別の日に振り替えることは可能なので、有効期限についてはこれから検討する。

ウトロ地域協議会：利用した人がわかるように明記する必要がある。また、料金については、どのようにになったのか。

環境省：料金については、これから検討。流れが決まってきたため、試算に着手する。

ウトロ地域協議会：運営費が赤字になるか黒字になるかわからないので、ある程度の枠を確保した方がよい。積み金をしておくのが良いのでは。

環境省：経費面においてはシビアに見ないと運用できず、かといってシビアにやりすぎてもいけないと考えている。ただ、できるだけおさえるようにしたいと考えている。

ユートピア知床：以前、ツアーが行えない時、駐車場料金の徴収について苦情がきた。要所ごとに明記する必要がある。また、納得できるような内容にする必要がある。

ウトロ自治会：地元の人たちは五湖から気持ちが離れてきている。地元の人にも見てもらう、システムを知ってもらう努力が必要。手数料・駐車場料金について自治会を通しての無料券の配布などはできないか。地元枠などの優遇がほしい。

環境省：運営の状況の説明を行う必要があると考えている。制度上は、一般の利用者と同じ扱いになってしまう。プラスアルファとして何か企画等考えていきたい。駐車場については、他の事業者と一緒に考えていく必要がある。

(3) 議題 2. 知床五湖フィールドハウス・施設平面図（案）について

環境省：資料 2 の説明

ユートピア知床：トイレは 24 時間使用可能か。

環境省：駐車場が閉まる時に同時に閉める。

しれとこ・ウトロフォーラム 21：女子トイレは並ぶと思う。トイレの入り口が一つだと、交差し、

混乱するのではないか。男と女のトイレの入り口は分けた方が良いのではないか。

環境省：女子トイレについて、並ぶスペースは長めにとってある。通路の幅も 180cm あるので、2 人行き来する分には問題ない。3 人だと避ける必要もある。男子トイレについては、広場に出る部分の長さが短いので、退避可能である。

しれとこ・ウトロフォーラム 21：並んだ場合は、3 人通る必要が出てくる。通行可ならば問題ないが、混乱を招く恐れがでてくるのではないか。図面をみると、出入り口を分けることも可能に見える。このような対応はできないか。

環境省：並ぶ可能性もあるが、女子トイレの穴数は現在の 2 倍になるため、渋滞発生頻度は少なくなる。一番混雑する時間を想定して作ると過剰整備になってしまう。穴数をできる限り多くすることで混雑時間は少なくしている。また、暖房効率等を考慮すると、入り口は一箇所にした方がよい。現時点では問題はないと考えているが、もう一度検討を行う。

ウトロ自治会：レクチャールームから外への出口の幅も狭くないか。

知床ガイド協議会：ホールの入り口が狭すぎる。駐車場側にもう一つ入り口を設置するのは不可能か。

知床斜里町観光協会：風除室の入り口はどのくらいの幅か。狭いのではないか。

環境省：160cm から 180cm くらいを想定している。180cm あると相互交通が問題ないとされている。

ウトロ地域協議会：ドアは自動か手動か。

環境省：今後検討する。

ウトロ自治会：入り口は広く取ったほうが気持ちが良い。狭いと押し込められた感がある。入り口も出口もできるだけ広くしたほうがよい。180cm は五湖に来るお客さんの数を考えると狭いのではないか。

環境省：現時点で問題はないと思うが、今後検討する。

知床ガイド協議会：券売機の位置から考えると、風除室から入ってすぐ目の前に行列となる。入る方向についても考えてほしい。

環境省：風除室から入ってすぐ並ぶようにしたほうがよいという意見もある。これから検討する。

ウトロ地域協議会：暖房、冷房はつけるか。

環境省：暖房はつける。冷房は検討中。レクチャールームは締め切ることもあるため検討する必要がある。

知床ガイド協議会：建物の周りの点線は屋根か。広場の上に全面に屋根がついているのか。

環境省：点線は屋根であるが、広場の屋根部分については現在検討中。今回はフィールドハウス本体のみの議論としたい。

知床ガイド協議会：前回の図面では、ひさしが出ているような図面であったが、これはなくなったのか。

環境省：雁木を想定していた部分を、受付とレクチャースペースを広げるために落とした。

知床ガイド協議会：手前の部分に日よけの為の屋根はできないのか。その代わりに、広場に日よけができるのか。

環境省：広場に日よけは設けたいが、2つの施設を繋ぎあわせて巨大な建物には見せたくないと考えている。

知床エコツーリズム推進協議会：レクチャーを受けないが、知床について多岐の質問する利用者に対応できる受付がないと動線が崩れるのではないか。また、動線を考えた時に、出口と入口の2箇所あるほうがよい。また、レクチャーを次々回に受ける利用者が中で待機する可能性がある。ホールが狭いため混雑するのではないか。地上歩道への出口を広くすることで、レクチャー室が早く使えるようになる。また事務室はこのスペースをとる必要があるのか。業務・配置する人数を考えてから設定する必要がある。また、レクチャールームのトイレについて、一番利用するだろう子供・乳幼児に対応するようにしてほしい。

知床斜里町観光協会：倉庫は必要か。いらないければレクチャー室のトイレを下げられ、出入り口を広くとれ、流れがスムーズになるのではないか。

環境省：レクチャー室のシステムや機械を置くスペースが必要なので、広さはともかく、倉庫は必要。トイレのセットバック、広がりについては、検討する。

知床斜里町観光協会：発電機室はどこに設置するのか。

環境省：建物とは別棟で建てることを検討している。

知床斜里町観光協会：倉庫に保管予定の物品については、発電機と共に外に保管することは可能か。ひさしが周囲の建物と一体感のあるものになるのか。広場は待ちスペースとしても利用されることが想定されるため、ある程度待機できる状況作りをしてもらいたい。

環境省：広場については、パークサービスセンターからフィールドハウスまでひさしを繋げるとは考えていない。なんらかの日よけを作ること考えている。パークサービスセンターとフィールドハウスは同一の設計業者なので、デザインの統一は図れる。

しれとこ・ウトロフォーラム 21：荷物を預かるところはあるのか。

環境省：パークサービスセンターにコインロッカーが設置される予定。

しれとこ・ウトロフォーラム 21：フィールドハウスの受付以外に、総合案内をするような受付が必要なのではないか。

知床エコツーリズム推進協議会：動線は広場を基点としているようだが、どのように広場に誘導するするのか。どこに行くか分からない利用者はまず、建物の中に入ろうとするのではないか。広場に行く目的はないのでは。

環境省：団体利用者は、広場で説明等を行うだろう。個人利用者は、まずトイレに行くだろうと想定した。その際、広場を通過して、トイレに行くと考えた。

知床エコツーリズム推進協議会：行かない利用者もいるだろう。ある程度、建物の説明が分かるようにした方がよい。

環境省：サインの計画をすすめている。フィールドハウスは、地上歩道の入り口としての役割として設置している。PSCが情報案内としての機能を担うことになるかもしれない。

北海道山岳ガイド協会（オブザーバー）：外来種持ち込み防止対策の設備は設置するのか。

環境省：レクチャールーム出たところに泥落とし場の設置を考えている。

スケジュールとしては、今回の意見を聞いて固め、残りは微修正という形にしたい。これから、

動線の整理について考えていくようにする。

知床ガイド協議会：多目的トイレが奥のほうにあるので、混雑時に車いすが奥に行くのは難しいため、場所を手前に変えてほしい。また、事務室の配置を変更し、駐車場へ外向きの窓をもうけ、受付とするのはどうか。

環境省：ヒグマ活動期の引率者との情報交換・無線機の貸し出しなどを考えて事務室を奥に設置した。

知床ガイド協議会：券売機の台数は3台か。券売のスピードはどのくらいか。

環境省：現時点では3台を想定。現在、機種を選定をしている段階なので、これから発券スピードなども考慮して台数を検討する。

今回の意見を取り入れられるものは入れ、修正案を皆さんにご提示させていただく。次回の協議会では間に合わないので、図面の作成が完了した時点で、皆に送付する。

申請書については、事前の配賦・記載を進めていきたい。運用面で協議会構成員の協力をいただきたい。

一同：

(4) 議題 3. 車両渋滞対策における検討の枠組み等について（素案）

環境省：資料3の説明

しれとこウトロフォーラム：駐車料金の値上げはやめてほしい。公共交通機関の場合、渋滞時どう対応しているのか。

環境省：今は列の最後尾に人を配置し、駐車場と無線連絡してバスを優先して通している。

ウトロ地域協議会：ある程度のハード面での対策を行い、その後、ソフト面の対応を考えてもらいたい。ハード面に対して出来る方法を前向きに検討してほしい。複雑な仕組みにしないほしい。

斜里町：駐車場面積を大きくすることは整備の方針としてはない。段差解消により格段に駐車台数が増えるものではなく、費用はかなりかかる。やらないよりやるほうがよいのはわかるが、渋滞対策としては完結しない。ソフト対策とセットで検討する必要がある。

ウトロ地域協議会：利用のしやすい区画はある。曲がっている部分をまっすぐにするということも不可能なのか。

環境省：湿地と森は不可能。ササ敷きの箇所であれば希少植物の調査をすれば、可能性はある。

ウトロ地域協議会：形を浴するような少しの拡張もできないのか。

環境省：園地全体の利用として、利用しやすくするための変更というのはいりうる。台数を増やすという意味での拡張は難しい。特別保護地区でもあるので、慎重にやりたい。

ウトロ地域協議会：今後滞留時間が延びれば、混雑するので、ソフト面だけで対応できるのか。スペースを利用しやすくすること、台数多くすることを第一に考え、その上でソフト面での対応ではないか。

斜里町：逆の順番で対応をしていきたい。まずソフト面での対応を行うようにし、その上で、使い

勝手の良いようにハード面として駐車場を変更していくようにしたい。

ウトロ地域協議会：管理者の台数も増加する。また、利用者の滞留時間も長くなるということはわかっているはず。渋滞が起こることは見えている。

知床斜里町観光協会：ソフト面での対応も必要だが、駐車台数の確保もしっかりしてもらいたい。段差の上を現在道路としてのみ利用している。その部分を駐車スペースとして利用することも可能である。この部分を改修することで、自然地を改変せず収容台数が増大できるのではないか。現場で確認すれば問題ないが、会議の場で話す際には図面が必要となってくる。

環境省：以前手作業ベースで図面の作成を行った。効果の検証が出来るような資料の作成をすることをこれから考えていく。

スケジュールについて、混雑状況の情報提供については、現段階では、携帯サイトで情報提供など検討したい。マイカー規制のことも併せて、シャトルバスの活用も検討していく。

ウトロ地域協議会：斜里町と北海道共に予算確保困難と記載されているが、これは詰めた結果なのか。駄目だということが前提となってしまう。

斜里町：状況的に困難であることにはかわりないので、困難と記載した。可能性が無いというわけでない。

北海道：今回の工事は改修となり、お金がかかる。出来ないことはないが、困難である。

環境省：工法的には出来るが、資金の確保が必要だということ。

観光協会：もし改修を行うならば、どこが資金を出すのか。

北海道：北海道庁の自然環境課が出すことになる。

ウトロ地域協議会：地域で必要だということになれば、積極的に取り組めるのではないか。

知床斜里町観光協会：自然の改変でない部分について、利用者の利便に対応する必要がある。

知床ガイド協議会：駐車場を大きくしても今後混み合うことになると考えられる。問題なのは、利用者の心理面の部分。どれだけ待てば良いのか分からないという不満が、クレームになるので、まず情報を徹底的に提供する。空いている時間を周知して利用者を分散化させる必要がある。

知床斜里町観光協会：情報提供の協力はしたい。情報の共有するための整備は各ホテル整っているはず。利用者にネット上で道路状況を流したい。

北海道山岳ガイド協会（オブザーバー）：地上歩道の利用の際に予約をするならば、駐車場についても予約制でないと、事前予約の方が入れないのではないか。

環境省：ヒグマ活動期については、地上歩道の利用に予約をして入る方は事前に登録引率の方が連れて入ることになると思うので、引率者の方に配慮してもらって、アプローチしてもらおう。現地集合については何時のバスに乗るなどのアナウンスをすべきだろう。大きく遅れれば、その時間に入れなくなる。その時は次回以降の開いている時間に変更してもらおうことになる。

北海道山岳ガイド協会（オブザーバー）：地上歩道と駐車場はセットにして考えるべきだろう。

環境省：それは難しい。

しれとこウトロフォーラム 21：駐車場料金について、駐車時間が長い・短い、また人数により料金を変動させるのはどうか。

環境省：日本国内の法律では対応できない。相乗り等を推奨していきたい。

しれとこウトロフォーラム 21：以前行っていた、乗り合いタクシーのようなものはできないのか。

環境省：運営主体をどこが担うかなどの課題はあるが、方法としてはあるだろう。

今後継続して議論を行う。現時点では、情報提供の部分に力を入れていく。

(5) 議題 4. 知床五湖キャッチフレーズへの対応について

環境省：資料 4 の説明

ウトロ地域協議会：キャッチフレーズは最後のもの、ボディコピーは 2 案目が良い。

知床斜里町観光協会：前回、キャッチフレーズの中でヒグマという表現を修正すべきという意見は出たか。これをみると修正ありきと受け取れる。

環境省：原案と修正案を候補として、全部で 11 案の中から選びたい。今回は上位の 3 つを取り上げたが、その他候補に挙げたものも再度候補として考える。

知床斜里町観光協会：誤解を与えるという恐れは、主観の問題なのではないか。修正する必要はないのでは。私は、韻を踏み、文字数も考えてキャッチフレーズを作成した。変えられると困る。キャッチフレーズは短い文での説明なので、このなかで誤解がないようにというのは不可能。

環境省：分かりやすく、簡潔に。ここでは耳に残るような言葉にすべきということか。

ウトロ地域協議会：原文を無視しているものではない。修正を加えたものも候補ということで、有りだと思う。

環境省：プロのコピーライターに頼むという話も出た。

知床斜里町観光協会：印刷物の作成を行うならば、印刷会社の中にコピーを作れる人もいるだろう。その人に何点か見せて、選んでもらうということも出来るのでは。

ウトロ地域協議会：完全に任せるのではなく、何点か出して、専門の方に決めてもらうのも良い。

環境省：前回と今回の意見を踏まえ、予算と相談しながら、プロの方から意見をもらい、再度協議会で話を進めていきたい。

しれとこウトロフォーラム 21：キャッチフレーズの中で「クマが」と記すのには抵抗がある。クマが見られると利用者に誤解を招く恐れがある。

知床斜里町観光協会：クマと接触するから気をつけてということだけでなく、現場で自然と接する最前線であることを表現したものにしたい。さらにライフスタイルや観念まで含むものがよい。そのことをお客さんに理解してもらえるものがよい。

ウトロ地域協議会：新しい意見を取り入れるのではなく、これまでの意見をまとめたほうがよいのではないか。

ウトロ自治会：プロの方から提案をもらう時に、キャッチフレーズの使い方を示してほしい。

しれとこウトロフォーラム 21：観光というイメージも重要になるのだから、しっかり考えたほう

がよい。

知床財団：プロの方にポスター案という形で提示いただくのがよいのではないか。

環境省：キャッチフレーズはポスターとチラシで使用するイメージ。文書の長さを考えながら、必要な情報を盛り込むようにしたい。

(6) 議題 5. パブリックコメントについて

環境省：資料 5-1、資料 5-2、資料 5-3 の説明

ウトロ自治会：パブリックコメントをあり方協議会主体で行うということは前回の協議会で出ていたか。

環境省：当初本省で行うことを想定していたが、計画は地域のものであるので、現場対応と言われた。釧路環境事務所を出してもよいが、協議会で作成してきたものであるため、協議会でパブリックコメントを行うことにした。

知床ガイド協議会：高架木道は 799m でないのか。資料 5-3 の中の 496 が 800m になっている。

環境省：約 800m と変更。

パブリックコメント後も協議会で軽微な修正を加える。大きな修正の場合は再度パブリックコメントを行うことも可能。また、引率者の試験の結果を反映することもある。審議会とその後の手続きを考えると、大きな変更ができるのは、7、8 月まで。いただいた意見はこの場で、修正事項について協議させてもらいたい。

(7) 議題 6. その他

環境省：資料 1 の説明

知床財団：知床五湖利用のコントロール導入実験について説明

4 月 19 日から予約がスタートした。エコツーリズム推進協議会の HP から予約可能。予約は、6 月 19 日から 7 月 19 日の間、1 日 27 枠分ある。まだ予約可能なので、利用者への広報・協力をお願いしたい。

ウトロ自治会：実験前に話し合いはするのか。昨年、アンケートの取り方で、利用者の方に迷惑をかけた。アンケートの内容は事前に掲示して欲しい。また、電気牧柵の張り方にも配慮が必要。

知床財団：5 月 11 日あたりに話し合いの場を設けたい。

ウトロ自治会：今年度もアンケート調査はやるのか。

環境省：実施予定。利用者の意識、ベースのデータとして、色々調べたい。モニタリング項目については現在、研究者の方と調整中。次回の協議会で報告を行いたい。アンケートの方法については、利用者に配慮したもの、また負担にならないようにする。

知床斜里町観光協会：予約の取り方を、今年度実験を出来ないか。取り合いになるのではないか。

知床財団：予約開始前に既に予約が入っているものは、優先した。それ以降は、早い者勝ちのシステムである。現在、どのくらい埋まるか、どのくらい利用されるかの実験を行っている段階である。

知床ガイド協議会：それぞれの会社で希望枠を出すようにし、その後それぞれで調整を行えば、問題ないだろう。

ウトロ自治会：それぞれの業者で希望枠を出すようにすれば問題ないだろう。

知床財団：5月11日あたりに設ける予定の話し合いの場でこのような話を進めたい。制度としてではないが、現場の方の意見としての話し合いを進めていきたい。

環境省：閉会挨拶